

10周年にあたって

VDEC（大規模集積システム設計教育研究センター）は本年5月に設立10周年を迎えました。振り返りますと1996年に当時の鳳先生をセンター長としてVDECの活動を開始して以来、“アッ”という間の10年であったと思います。

このセンター構想が持ち上がったのは、折しもバブル崩壊後日本経済を立て直す機運が高まった1990年代初頭のことでしたが、もともとの発端は1980年当時に菅野先生の指導のもとで行なった調査研究でした。わが国の経済、とくに半導体産業が急速な発展を遂げ始めていた時期ですが、米国が先んじてMOSIS（MOS Implementation System/南カリフォルニア大）を設立し、半導体設計教育・研究に力を入れ始めた頃です。今振り返りますと産業の発展とともに“製造から設計へ”、“ハードからソフトへ”と価値が拡大・変遷する“時代の変化”を見越した組織の設立だったわけですが、わが国でもほぼ同時期にこの重要な変化を見通した調査研究を行なったわけです。たまたま当時東京大学に職を得た私はその調査委員会の幹事補佐として調査活動に関与できたことは大変幸運であったと思います。

1980年当初の調査研究では現在のVDECよりもひとまわりも、ふたまわりも大きな“地域分散型センター”構想を提案しましたが、残念ながら諸般の事情で実現には至りませんでした。その後、わが国の半導体産業でのDRAM不振や、日米半導体協定に影響された高性能マイクロプロセッサ開発での遅れが生じるなど、集積回路設計力での立ち遅れが大変著しくなりましたが、1990年代に入って当時の生駒先生や広瀬先生の指導、助言により、文部省、通産省の理解を得て、1996年に本センターが発足し、“巻き返し”に転じたわけです。

おかげさまでこの10年間にわが国の大学・高専での集積回路設計技術は著しい進化を遂げることができました。半導体産業界からの絶大な理解と支援を得て、また文科省の運営費交付金による継続的設計環境整備のおかげにより、大学での集積回路設計教育は大変高度化し、いまでは年間400品種以上の設計を行うまでになりました。主要国際学会でのわが国の大学からの寄与も大幅な伸びを示しています。その間、この10周年記念会合を開催しています武田先端知ビルを武田郁夫氏から寄贈いただけるなど大きな幸運にも恵まれました。

VDECは次の10年に向け気持ちを新たに再出発いたします。しかし気がかりなことがないわけではございません。VDECに限らずわが国の集積回路設計ではほぼ100%、設計ツールを米国に依存しています。設計ツールは“知恵の塊”ともいえるもので、ぜひこの方面でのわが国の寄与を高める必要があります。また設計力強化では東アジア勢の台頭が著しく、特に台湾では数百人規模で“集積回路設計教官”を増員してきています。これらの教育システムを通じて供給される“設計力”は自国の需要を賄って余りあり、形を変えた“設計力の輸出攻勢”をもまねきかねません。わが国の集積回路設計教育の更なる高度化、差別化を推し進め、これらの海外勢にも十分対抗できる教育・研究体制の構築が急がれます。

今回の10周年記念はこれまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを表し、我々センター職員の気持ちを一新し、さらに将来に向けて活動を再スタートする決意を込め開催いたしました。各方面からの引き続きのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

2006年5月10日

浅田邦博（VDECセンター長）